

# Narajisc

Newsletter April 2026 vol.82

対日理解促進交流プログラム

## JENESYSによりインドからの大学生等を受け入れました

Japan Friendship Ties Programs (JENESYS) We welcomed university students and others from India.

11月28日、インドからの大学生等20名が来訪し、本学の日本人学生との交流プログラムを開催しました。これは、外務省の対日理解促進交流プログラムにおいてアジア太平洋地域の優秀な青年を対象としたJENESYSによる招へい事業の一環で、公益財団法人AFS日本協会を通じて、古都に位置する奈良女子大学に交流の申し出があり実現しました。

プログラム開会にあたり、国際戦略センター運営委員会奈良女子大学部会の副会長である橋田力教授から、奈良や大学の紹介が行われました。その後、明治時代に活躍し、日本の近代美術における功績者である岡倉天心とインドのつながり、日本文化をテーマとしたイントロダクションが実施されました。続いて、文系学生は日本人学生4名を交えたグループディスカッションを行いました。日本人学生には交換留学を経験した学生が含まれており、英語による活発な議論や交流が行われました。また日本文化を学ぶ参加者からは日本語での発言もあり、両学生にとって絶好の国際交流の場となりました。

また、理系学生は2022年に創設された本学工学部棟の施設見学を行いました。同部会員である大高千明専任講師の下でモーションキャプチャーや足底圧計を見学しました。工学部生によるデータ計測方法や活用事例等の説明に熱心に耳を傾け、実際にデータ測定を体験した参加者からは多くの質問が上がっていました。

プログラム中にはキャンパスの見学も行われ、奈良公園から頻りに訪れる鹿や美しく色づいた紅葉の写真撮影を行うなど、古都奈良ならではの文化にも触れる貴重な体験となりました。

On November 28, we welcomed 20 university students from India for an exchange program with our Japanese students. This visit was part of the JENESYS program, an initiative by the Ministry of Foreign Affairs to promote a better understanding of Japan among talented youth in the Asia-Pacific region. The event was made possible through the AFS Intercultural Programs Japan, which arranged this exchange at our university, located in the ancient capital of Nara.

The program began with a welcome address and an introduction to Nara and our university by Professor Tsutomu Hashida, Vice Chair of the International Strategy Center Steering Committee. This was followed by an introductory session exploring the historical ties between India and Tenshin Okakura, a prominent figure in modern Japanese art during the Meiji era, as well as broader themes of Japanese culture. Afterwards, the humanities students engaged in group discussions with four Japanese students, including some who had experienced study abroad. The discussions were lively and conducted in English. Participants who are studying Japanese also contributed in Japanese, making it a truly rewarding international exchange for everyone involved.

Meanwhile, the science and engineering students visited the facilities of our Faculty of Engineering, which was newly established in 2022. Under the guidance of Lecturer Chiaki Otaka, a member of the steering committee, they observed demonstrations of motion capture technology and plantar pressure measurement systems. The visitors listened intently as our engineering students explained data measurement methods and real-world application cases. Those who participated in the live data measurements themselves asked many insightful questions, showing a high level of engagement.

During the program, the participants also enjoyed a campus tour, which offered a valuable opportunity to experience the unique atmosphere of the ancient capital. They were delighted to photograph the deer that frequently wander in from Nara Park and the beautiful, vibrant autumn foliage.



日本文化の紹介を行う橋田教授



正門前で記念撮影

## MIRAI オンラインセッションに参加 2025/12/12

外務省が推進する対日理解促進交流プログラム「MIRAI(Mutual-understanding, Intellectual Relations and Academic Exchange Initiative)」において、同窓生とのオンライン国際交流が行われました。このプログラムは、同省が未来を担う欧州、中央アジア・コーカサス地域の若い世代を招へいし、日本の同世代との知的交流の場を設けることで、両地域における日本の現状と政策に関する理解を促進することなどを目的としています。

奈良国立大学機構において、昨秋（9月25日）に実施されたオンラインセッション「日本語の表現と考え方」に続き、両地域13か国（アイスランド、イタリア、エストニア、オーストリア、カザフスタン、ギリシャ、コソボ、スペイン、フィンランド、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ルーマニア）から学生・卒業生など17名、奈良女子大学の学生4名と以前プログラムに参加した神戸大学の学生2名との合計23名が参加しました。

今回のオンラインセッションでは、国際戦略センターの橋田 力教授より、本機構および奈良女子大学の紹介の後、日本文化と奈良について、岡倉天心（当初、奈良女子大学の所在地である奈良奉行所跡に東京美術学校の分校を構想したこと、また同校の制服を天平時代の官吏の服を模して自らデザインしたことなど奈良との関係がある）「茶の本」で示された簡素さ（わび）や余白の使い方など日本の伝統芸術の特徴とその背景にある思想に関する講義が行われました。続いて、参加者が6つのチームに分かれて活発な議論がなされた後、意見共有が行われました。参加者は、日本文化の奥深さや欧州など自国の文化との相違について相互に学びを深めました。



今回のオンライン国際交流が日本と欧州、中央アジア・コーカサス地域との関係強化につながることを期待されます。今後、国際戦略センターは、さまざまなプログラムを通じて国際的な学びの場を提供していきます。

## 春休み海外研修を実施しました

春休み期間中、国際戦略センター奈良女子大学部会では渡航型・オンライン型の海外研修を実施しました。

感想の一部を紹介します。

- キャリアデザイン・ゼミナルB（48）グローバル女性人材養成プログラム ニュージーランド研修  
2月15日～3月16日の日程で、グローバル女性人材養成プログラム ニュージーランド研修を実施し、19名が参加しました。詳しくは「Narajoisc 特別号 グローバル 女性人材養成プログラム（ニュージーランド）」を発行しますので、そちらをご覧ください。
- NaralSC 春セブ研修  
2月23日～3月11日の日程で、NaralSC 春セブ研修を実施し、奈良女子大学の8名が参加しました。  
<参加者の感想>◆ 海外の生活に適應する力を身につけました。約2週間なので、それほど長期間ではありませんが、滞在中は体調管理に気をつけ、食べる物や飲む物に注意しました。また、水を口にしないよう、歯磨きやシャワーの時も工夫をしました。QQEでは安全管理が徹底された日本食が提供されたため、安心して学習することができました。このように様々な人の支えがあって海外でもうまく生活していけたように感じます。◆ 英語を使う場面がたくさんあり、英語力が向上したと思うので、今後も英語の勉強を続けていきたい。フィリピンでの生活は楽しさだけでなく、辛さや大変さを感じることもたくさんあったので、改めて日本のありがたみが分かった。今回の研修でとても貴重な経験ができ、参加してよかったと思う。
- NaralSC ヨーロッパ研修  
3月3日～3月14日の日程で、NaralSC ヨーロッパ研修を実施し、奈良女子大学と奈良教育大学学生ら14名が参加しました。  
<参加者の感想> ◆ 心待ちにしたヨーロッパ研修ですが、ヨーロッパという土地や人々との交流を通じて、想像以上に充実し、学びの多い研修となりました。またヨーロッパや他の地域を訪れ、視野を広げ、将来に繋げたいです。◆ 国際社会で働く方と現地で実際に話せる、または話を聞ける機会は少なく、とてもよい経験となった。また世界遺産を訪れる時間もいただけたことも大きく、研修に参加させていただいて本当に良かったと感じている。◆ スリの対策など安全に観光するための方法を先生に教えてもらいながら回れたのはとても良かった。
- NaralSC 海外オンライン研修セブ島  
2/23-2/27・3/9-3/13の2日程で実施しました。



# 日本語オンラインキャンパス「そらみつ」を実施しました

2026年1月10日、11日、18日の日程で、奈良女子大学日本語オンラインプログラム「そらみつ」を実施し、海外協定校（ベトナム国家大学ハノイ外国語大学・アイルランガ大学・ハノイ大学・南京大学・東呉大学・東海大学・ルーヴェン・カトリック大学・リーハイ大学・トリアー大学（参加学生数順）および奈良女子大学在学中の留学生）の学生32名が修了しました。事前学習としてオンデマンドでの講義（日本語）を視聴したうえで、課題に取り組み、オンライン授業時に課題の成果を発表する時間を設け、授業時間内にフィードバックを行いました。また、プログラム前に奈良女子大学学生とペアを組み日本語会話の学習期間を設けました。プログラム内でもの奈良女子大学生企画のイベントに参加することで、学生のレベルでの国際交流の機会となり、日本語能力向上と日本文化理解に集中して取り組めるプログラムとなりました。参加者の感想の意思一部紹介します。

## Impressions:

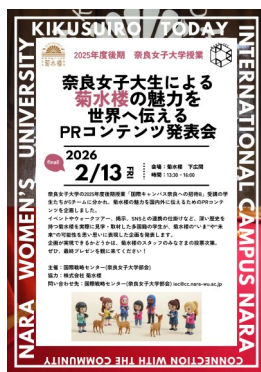
◆ペアで交流した奈良女子大学の学生の方は、スピーチの原稿やアイデアを考えると、たくさん手伝ってくれました。忙しい中でも、時間を作ってミーティングをしてくれて、とてもありがたかったです。◆そらみつプログラムを通して、日本についてたくさんことを学びました。すしや着物、日本の文化だけでなく、聖地巡礼やコンテンツツーリズムについても知ることができて、とても勉強になりました。また、日本の文化を学ぶだけでなく、自分の文化や国についてもたくさん話することができたのがよかったです。いろいろな人と意見を共有できて、楽しかったです。このプログラムのあと、日本語の語彙や日本についての知識が前よりも増えたと感じています。◆「そらみつ」に参加して、ほかの国に住んでいる人々と交流できて、とても嬉しいです。違う国に住んでいますが、どちらも日本語と日本文化に興味があるので、お互いに会う機会になりました。また、先生からの授業はすごく有益でした、日本文化や料理について色々勉強しました。本当にありがとうございました。◆日本の伝統文化についても、アニメのような流行についてもいろいろ勉強になりました。とても素敵な体験でした。グループでディスカッションする時も盛り上がるのができて、楽しかったです。授業の前に行われたボランティア生との交流も楽しかったです。

文化と言語を超えて一緒に学び、交流できる国際的な学びの場

# 国際キャンパス奈良

2025年度より、留学生と一緒に現地取材・コンテンツを作成編集して奈良の魅力の世界に発信する授業「国際キャンパス奈良への招待」がはじまりました。後期の授業では、古都奈良において名士や文豪などに愛されてきた老舗料亭「菊水楼」のご協力のもと、新しい世代に「縁」をつなぐ新しい事業の企画を立て、授業最終日には菊水楼「下広間」にて、スタッフのみならず参加していただき、最終発表を行いました。発表会の様子についてご紹介します。

2026年2月13日（金）、菊水楼にて、「奈良女子大生による菊水楼の魅力の世界へ伝えるPRコンテンツ発表会」を行いました。授業に参加した26名は留学生を含んだ5チームに分かれ、菊水楼を複数回訪れて取材を行うなどしながら、老舗料亭の魅力を再発見し、多国籍かつ若い世代のチームだからこそできる企画に取り組みました。当日の発表内容から、菊水楼スタッフによる投票が行われ、後日、優勝チームが発表されました。優勝したのは「やまとさん」チームが提案した「時代別カフェ」の企画。この企画をもとに、菊水楼の2026年度のイベントに向けた、学生参加のプロジェクトが始まる予定です。

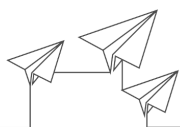


## Impressions:

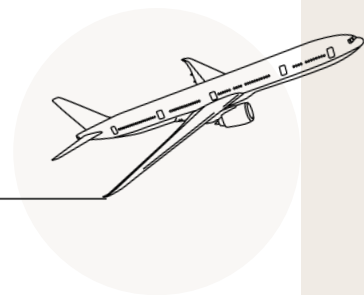
Q：菊水楼について情報発信するためのコンテンツを作る中でぶつかった困難は何でしたか？その困難な状況を乗り越えるために、あなた自身は何をしましたか？

◆コンテンツの詳細な内容を話し合う中で、メンバーと熱中しすぎて何について話して会っていたのか分からなくなる場面が多々ありました。論点がずれてしまい、授業中に進めなかった部分に取り組みすることができないこともありました。それらに対処、克服するために、グループのラインで意思疎通を図ったり、授業中でなくても行ける部分を話し合い、次の授業までの課題を設定しました。また、自分たちが菊水楼の何を課題だと考え、それをどう克服したいと考えているのかに都度都度立ち返り、論点を整理できるようにしました。◆ We have to find out what is the only thing that we can only experience in Nara and Nara's famous thing. And also we have to find out what the audience want and what we can offer to things as a new experience. We wanted to do something unique so it was difficult to brainstorm what people need and what we can offer. But we did overcome finding out what we can offer as a unique thing of Nara. ◆ In this class, we worked in groups to create promotional content for Kikusuiro. One of the most difficult parts of creating content was communicating our ideas clearly and efficiently within the group. Because our group members had different language abilities, it sometimes took more time to explain concepts, agree on ideas, and make decisions. Especially when discussing creative details such as wording, images, or the overall message, misunderstandings could easily happen. To overcome this, we used simple English, gestures, examples, and visual references. We were patient with each other, repeated ideas when necessary, and made sure everyone felt comfortable sharing their opinions. This approach helped us build trust and allowed everyone to contribute in their own way. Another challenge was understanding how to promote Kikusuiro in a way that would appeal to different audiences. Each member had a slightly different perspective on what was attractive or important. We solved this by listening carefully to each other and combining ideas. By discussing what Kikusuiro represents culturally and emotionally, we were able to create content that felt more authentic and meaningful. Working step by step and supporting one another helped us turn initial difficulties into a positive and creative experience.

# 交換留学にいきました。



## 帰国後レポート



理学部 化学生物環境学科 4年 上田紅葉

リンカーン大学（ニュージーランド） 留学期間：2025/7/6～2025/11/15

### <リンカーン大学を選んだ理由>

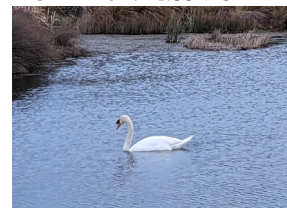
私は将来、農業を通じてグローバルに活躍したいと考えています。この目標に近づくために異文化理解、そして農業の専門的な知識を得ることが必要だと感じ留学を考え始めました。そこで大学選定を行っているときに会ったのがリンカーン大学です。農業大国であるニュージーランドで長い歴史を持ち、農学分野に強みを持つこの大学は自分がまさに求めていた環境だと当時強く感じたことを覚えています。また、留学生が学生数の半分を占めるといった点から伺える国際色の豊かさがリンカーン大学を選択する決定打となりました。



大学の図書館

### <ニュージーランドでの生活>

リンカーン大学では1学期内に最大4つのコースを履修することができます。私は動物学、植物学、土壌学、アカデミックコミュニケーションを受講しました。理系科目では、週に3回の講義と1回の実習があり、文系または文理融合型の科目では、講義1回とTutorialが1回行われます。始めの頃は英語がほとんど分からず、講義録画の視聴や先生への質問をひたすら繰り返す毎日でした。現地ではシェアハウスで生活していたのですが、ルームメイトにはよく勉強の相談に乗ってもらいました。本当に心強かったです。時にはリフレッシュとして、家でお酒を飲みながら全力投球でゲームをしたり、山へハイキングに行ったりもしました。2か月ほどたって大学や現地生活に慣れてくるとそこからはもう何事も楽しく過ごすことができました。帰国の時に「まだここにいたい！」と心の底から思うくらい本当に充実した日々でした。



家の近くの池にいた白鳥

### <留学を終えて>

この留学を通じて「農業を支える仕事がしたい」「グローバルに働きたい」という思いがより明確になりました。その結果、留学前は消極的だった就職活動にも、前向きに取り組めるようになっていました。またこれまでとは全く異なる環境に身を置いたことでバイタリティーが向上したり考え方が多角化したりと、自分自身も成長させられたと感じています。留学を決意してから実現まで約3年かかりましたが、達成できてよかったと心から思っています。将来は、この留学経験を糧に、農学分野において国際的に活躍できる人材を目指していきたいです。



ハイキングの時の風景



**この国の、この大学で、こんな勉強がしたい！  
具体的にイメージできてきたけど…これで悩んでいます…  
留学相談フォームよりご相談ください。**

留学相談フォーム



奈良国立大学機構 Nara Isc 国際戦略センター 奈良女子大学

NEWSLETTER Vol.82 2026年4月発行

〒630-8506 奈良市北魚屋東町 TEL: 0742-20-3457 Email: iec@cc.nara-wu.ac.jp